

ソーシャル PM ニュース 2015 年 11 月

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクト（社会課題の解決を目的とするプロジェクト）のマネジメントについて、研究活動の状況、イベント、人材募集などについてお伝えします。

2015 年 11 月 もくじ

A. 研究会活動の状況

A1 ソーシャル PM 実践ワークショップの開催案内

第 2 回 「ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践」

A2 ソーシャル PM 一問一答

B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント

B1 「ITx 災害」会議 2015（11 月 21 日）参加報告

- (1) ITx 災害会議に初めて参加して
- (2) ITx 災害会議の企画・運営の進め方について
- (3) 「ソーシャル・プロジェクトマネジメントの必要性」講演者として

C. 連携団体活動紹介&プロマネ募集

C1 「WORK FOR 東北」プロマネ募集

C2 「サービスグラント」東京ホームタウンプロジェクト：活動紹介

=====

A. 研究会活動の状況

A1 ソーシャル PM 実践ワークショップ第 2 回の開催案内（小谷野正博）

日本、地域が抱える複雑な課題を解決するマネジメント手法を学んでみませんか。
PMI 日本支部ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会では、平成28年1月30日（土）に PMI 日本支部にて下記のワークショップを開催いたします。

このワークショップは平成27年12月5日（土）に行うワークショップ『ソーシャル・デザイン思考実践』に続く第 2 回です。第 1 回を受講された方はもちろん、初めて参加される方にも十分に理解いただけるような構成内容になっております。

ソーシャル PM 実践ワークショップ 第2回

『ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践』

～社会で必要とされる共通価値を探究する～

ソーシャル PM 実践ワークショップ 開催の背景

東日本大震災から3年、PMI 日本支部では「災害復興支援プログラム」を立ち上げ、プロジェクトマネジメントの専門性を活かしたプロフェッショナルなボランティアとして復興支援活動を行ってきました。

その中でいくつかの復興プロジェクトには直接参加してマネジメントの支援を行いました。活動主体やテーマが異なるプロジェクトを意図的に選び、パイロット・プロジェクトとして行ったものですが、成果を十分に挙げられたものもあり、そうでないケースもありました。

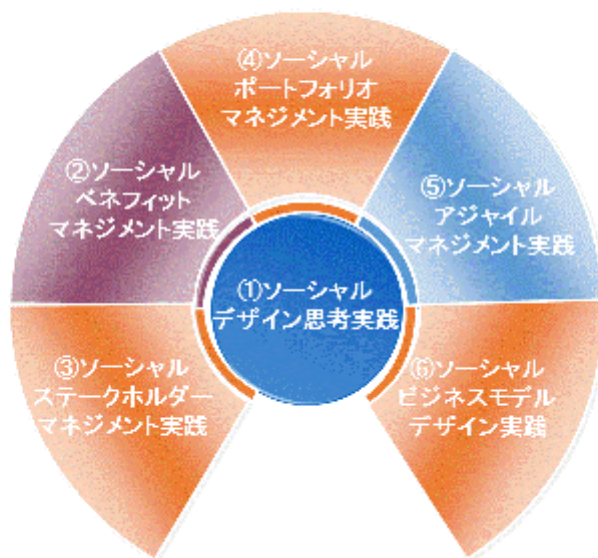
そこで得られた教訓は復興支援に限らず、社会課題を解決する活動(これを、「ソーシャル・プロジェクト」と呼ぶ)に共通して活かせるものであり、「新しい PM 手法」の開発が望まれていると考え、「ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会」を創設しました。

復興支援パイロット・プロジェクトの教訓から、ソーシャル・プロジェクトには以下のような困難があることがわかりました。

- 多様なニーズがあって、焦点を絞れず議論が堂々巡りして前に進まない。
- 目標やスコープがあいまいで、実行計画がまとまらず、走りだせない。
- 思いのままに進められるが、成果を出せない。
- 制度的な規制が障害となって、計画変更を余儀なくされる。
- マネジメント体制が弱く進捗が把握できない。

既存の手法をそのまま適用しても、なかなか定着しません。ソーシャルPM研究会では、これまでの研究活動を通して、社会課題解決に有効であると思われるソーシャル・プロジェクトマネジメント手法を適用してきました。そして、これまでの、マネジメント手法適用の中から得られた教訓を基に、**6つの研修コース**を開発・体系化し「**ソーシャル PM 実践ワークショップ**」として皆さまにご提供することになりました。

ソーシャルPM研修体系



『ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践』コースのねらい

ソーシャル PM 実践ワークショップの第2回として、「ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践」研修を開催します。

ソーシャル PM 研究会では、「ソーシャル・ベネフィットマネジメント」は、「**ソーシャル課題の本質を把握して、それを解決するための目標を設定し、実現、達成に向けたマネジメントである**」と定義しています。

また、ソーシャル・ベネフィットは、「経済価値」と「社会価値」（以降「価値」と呼ぶ）の両者をトレードオフせず、Win-Win 関係に持ち込むのが、ソーシャル課題の解決では重要になっています。

ソーシャル課題をベースとした新しいビジネスが生まれ、ソーシャルイノベーションが生まれるのは、「価値」が循環し、価値を共創する仕組みが不可欠です。その実現に向けては、まず、「価値」を理解し、組織が求める方針と、目標、「価値」、施策（アイデア）間での連鎖を整理し、その結果をステークホルダーと合意形成する事がとても大切になります。

今回のコースでは、上記ステークホルダーに、「**値連鎖の説明責任を果たすこと**」を主眼に、議論していきたいと思っています。

『ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践』コースの学習目標。

- ソーシャル課題の解決に、ソーシャル・ベネフィットマネジメントの重要性が説明できる。
- 社会も企業も人々もそれぞれに必要な共通価値を探求することの重要性を理解する

- ソーシャル課題を解決する上で、ビジョンと目標と実現ソリューションの間の「価値」の連鎖の説明方法、ベネフィットマップの説明方法が体得できる
- ソリューション実現に向けたアイデアを基に、ソーシャルPMの構造（アーキテクチャー）、実現可能に向けた計画を策定、運用を実現する上で必要となる「プロジェクト群（プログラムマネジメント）」の論点が理解する。

開催概要

主催	PMI 日本支部
テーマ	『ソーシャル・ベネフィットマネジメント実践』～社会で必要とされる共通価値を探究する～
日時	2016年1月30日(土) 10時00分～17時30分 セミナー 17時40分～18時30分 交流会（希望者のみ）
会場	PMI 日本支部 3F セミナールーム / 半蔵門線水天宮前駅より徒歩5分
参加費	今回のソーシャル PM 実践ワークショップは初めての試みとして開催いたしますので、特別に参加費は無料とさせていただきます。 交流会は有料となりますが、ぜひともご参加ください。
(税込)	セミナー参加費： 無料 交流会参加費： 1,000 円 (セミナー当日、受付にてお支払ください)
PDU	PDU 受講証明の発行はいたしません。

詳細内容とお申し込みは、次のサイトを参照してください。

https://www.pmi-japan.org/event/open_seminar/other/2015_11_23_spm_seminar_2-6.php

A2 ソーシャル PM 一問一答

ソーシャル PM という新しい取り組みはまだ概念も十分に確定していないので、いろいろな質問をいただきます。その中で特に広くみなさまにご理解いただきたいテーマについて連載で解説していきます。

内容についてみなさまのご意見もお聞かせください。

(Q8) いろいろな立場の関係者がいて、合意がとれなくて困っています。どのように解決したらよいでしょうか？

(A8) デザイン思考の真髄である「問題の本質を洞察する」アプローチをとることで、言葉に表れてこない、共通の思いを引き出すことができます。

「問題の本質を洞察する」とは、表に現れている問題事象の奥にある真実（インサイトと言います）すなわち根本的な問題点を捉える努力をすることを言います。

ソーシャル課題に関係するステークホルダーにはいろいろな立場の人がいます。一つの課題に対しても、立場によってその捉え方、解決の方向性について異なる期待を持っていることが少なくありません。そういう状況の中で解決策の要望を聞いても、バラバラな意見が出てきてなかなか合意が取れません。多数決で決めてしまうわけにもいきません。

関係者のさまざまな要望の奥にある共通の思いは何でしょうか。言葉になって出てこないこともあります。それをどうやって捉えられるでしょうか。

ソーシャル・デザイン思考の肝になるところです。

インサイトという言葉は、マーケティングでよく使われる言葉です。例えば、消費者インサイトというのは、消費者の購買行動の背景にある潜在的欲求を言います。最近の良いものを安く作れば売れるという時代ではなくなったと言われます。ものが有り余っていて欲しいものがないという状況になって、これまでのようなマーケティング調査をしても的確な答えが得られないということです。

そういう状況の中で新しい商品、新しいビジネスを考えると、消費者の本音を引き出す手法が必要です。もともとは文化人類学などで行われていたエスノグラフィーや商品・サービスのユーザーモデルとしてペルソナを用いるなどが盛んになりました。

ソーシャル課題についても表面的に見ていたのではわからないような物事の真実を見抜く必要があります。

(手法の詳細は、別途ワークショップなどで説明します。)

B. ソーシャルPMコミュニティ&イベント

B1 「ITx 災害」会議2015 参加報告

11月21日(土)に、「ITx災害会議2015」が開催されました。

ソーシャルPM研究会メンバーで、聴講者、運営者、講演者と違った立場で参加した3名から概要と感想を報告します。

イベント全体の詳細については次のウェブサイトをご覧ください。

<http://2015.itxsaigai.org/>

(1) ITx 災害会議に初めて参加して (大沼 大)

午前中は全体セッションで、今回3回目となるITx災害会議の、これまでの経緯と災害支援の過去・現在・未来についての報告があり、全体把握に大変役に立ちました。

ここでは午後の個別専門セッションから、特徴的だったセッション2件の状況を報告します。

① 国土強靱化の紹介と大規模災害時の情報伝達の現状

<内容紹介>

内閣官房国土強靱化推進室の瀬戸太郎様より国土強靱化の取り組みについて紹介がありました。

国土強靱化とは、とにかく人命を守り、経済社会への被害が致命的にならず迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えるための取り組みであるとのことでした。

具体的な活動内容は、災害のリスクを特定・分析し、脆弱性を評価し、対応策を検討し、計画を立て、その結果を評価することです。取り組みの内容については「ソフト施策(市民への啓蒙活動)」と「ハード施策(施設の整備)」があり、ソフト施策を今後は重視したいとのことでした。

同席されていた徳島県庁防災担当の方からは、国が国土強靱化の活動を通じて防災計画の標準化を行うことは大変有意義で、各自治体の防災計画の底上げに貢献しているとの意見が聞かれました。

また、フリーディスカッションでは、市民の防災に対する意識がまだまだ不十分で、受け身であることが問題であるとの意見がありました。

<感想>

国土強靱化の取り組みの意図や状況について理解を深めることが出来たとともに、国・自治体・市民がどのような連携を行っていて、どのような課題があり、対策案としてどのような事が考えられるのかといったヒントを得ることができました。

国・自治体・市民それぞれが適切に連携しなければ目的を達成できないということもあり、ステークホルダー・マネジメントの重要性を強く感じました。その一方で、防災という目的が明確で利害が一致しやすいため、国・自治体・市民が協力できる余地は十分にあるとも感じました。

② もっと IT×災害を推進するエンジニアリング志向なプロジェクト (ライトニングトーク)

<内容紹介>

実際に IT×災害として活用されている事案や、活用できそうなトピックについて、防災・減災、災害時の活動で IT をどう活用できるのかといったテーマで技術寄りの内容でライトニングトークが行われました。

・今夜から快眠生活 ～低コストで非常通知受信端末を作った話～ 石森大貴様
ドコモのキッズケータイと格安 SIM と SMS によるプッシュ通知と災害情報の API を組み合わせ、重要なアラートのみ受信できる専用端末を作った事例が紹介されました。

・データで探す災害 下農淳司様
JAXA が提供する衛星データを使い、災害情報のマッピングにどのように活用できるのかについて紹介されました。地震の前後で地形にどのようなギャップが生じたのかなどについても検証可能とのことでした。

・減災インフォにおける BigQuery を利用した自治体ツイートの収集+Tableau とか 森下泰光様
Twitter の Streaming API を使って自治体ツイートの収集および加工の方法について紹介がありました。ディスカッションでは Rest API で取得したデータとの差分を突き合わせることで自治体を取り消して削除したツイートの内容やその回数などが把握できるのではという話ができました。

・人工知能の災害対応への活用 - ソーシャル分析から遺伝アルゴリズムまで- 村上明子様
どの地域でどのような感情が生じているのかについて、人工知能を使って解析し、リアルタイムに可視化する方法について紹介がありました。
地域の検出は GPS ではなくツイート内に含まれる地名と前後の文脈などから推定するなどの工夫が行われているとのことでした。

・災害時の IT 支援の可能性 柴田哲史様
災害ボランティアセンター (VC) での支援活動を通じての課題とその対策について紹介がありました。
発災時には VC に問い合わせが殺到し、職員が現場に出られないという状況があります。ボランティアのニーズ確認が夜遅くまで続くというので、自治体の公式サイト「よくある質問」を充実させたところ、問い合わせの電話が半減したというケースもあったそうです。

その他、ボランティアの受付をスムーズにするにはどうしたらよいか、ボランティアの送迎バスの現在地をどのようにボランティアに伝えたらよいか、受付の待ち時間にボラン

ティアがいらいらしないようにするにはどうすればよいか、手書きされた被災者ニーズのデータ化を違和感なく簡単に行うにはどうすればよいか、などといった課題・悩みが提示されました。

ボランティアの需要と供給のギャップも大きく、発災直後や土日は需要を大幅に超えることもあるが、人手がほしい時にボランティアが減ってしまうなどの問題も IT を使って解決できればという話もありました。

<感想>

IT を使って災害に対しどのような貢献ができるのか？というテーマに対し、エンジニアがどうアプローチできるのかという具体的な事例や課題や可能性について参加者全員で共有し議論できたことは大変有意義でした。

個人的な印象としては、いわゆる一般のハッカソンやアイデアソン以上に相互に協力し知恵を出し合うといった空気がありました。IT×災害会議の全体を通じて言えることですが、社会課題の解決という目的の前では、参加者全員が無条件に協力的な態度になるのだということをも身を持って感じることができました。

(2) ITx 災害会議の企画、運営の進め方について (石塚幸夫)

ITx 災害会議は一昨年秋、昨年秋に続いて、11/21 土曜日に第 3 回の会議を開催しました。その運営メンバーとして参加した経験を報告します。

<内容紹介>

企画編成、プログラム、会場運営の 3 つの実行チームと全体をまとめる統括チームという構成で、過去 2 回の会議の経験、反省を活かしつつ、個人の英知を結集し、事前準備、当日の運営が行われました。

企画編成チームは、参加者の募集、招待者、プレスリリース、広報、アンケート作成などを準備する役割です。Twitter、Facebook、ITx 災害会議のホームページで開催を案内して Peatix で申込み、参加費の決済をし、会議当日の状況を USTREAM で中継するとともに、ライブレポートで会議内容が随時共有するという IT のプロならではの企画です。

プログラムチームは、全体セッション、個別セッションの企画・選定、講師の招聘、初心者向けオリエンテーション、グラフィックレコーディングの採用などバラエティに富み、魅力あるプログラムを準備しました。

会場運営チームは、会場の下見を行い、設営、備品準備、芋煮の炊き出し訓練による昼食、懇親会、セッションのネット配信、当日の会場の動線を意識した細やかな配慮ぶりを当日の運営に活かしていました。

各チームがチーム内でいろいろな IT ツールをフル活用して準備作業を進めるとともに、統括チームは、毎週 1 回昼休みに Google ハングアウトで統括ミーティングを実施し、3 チームの進捗報告、課題の共有を行いました。各チームからさまざまなアイデア、ソリュー

ションが出て、会議の準備は一步ずつ進んでいきました。

Google ドライブに事前に用意した Agenda の討議予定を会議中に共有して、発言者が次々に追記し、リアルタイムで議事録を作成、Google ドライブに作成した文書類を保管し、共有していましたので、タイムリーにものごとが進んでいることを実感できました。当日も Messenger グループを作成し、運営スタッフ間のリアルタイム・コミュニケーションをとるなど、利用できるネット上のサービスを活用し、効率的に運用されていました。参加者のおよそ 30 名が Twitter でリアルタイムに発信していました。

<感想>

スタッフ各自のモチベーションの高さ、責任感の強さ、会議を成功させようという熱意がコラボレーションされ、120 名近い参加者を集め、参加者、スタッフにとっても満足度が高く、スローガン通り、「つながり×ひろげる」会議を実現できたと思います。私も統括チームの一員として、全体の取りまとめをサポートしていましたが、このような素晴らしい会議に参加でき、貴重な経験になりました。

(3) 「ソーシャル・プロジェクトマネジメントの必要性」講演者として（中谷英雄）

ITx 災害会議の午後の個別専門セッションとして

「ソーシャル・プロジェクトマネジメントの必要性」

～ソーシャルPMが社会に貢献できる事とは？～

と題して話をしました。

その趣旨と今後の進め方について報告します。

<講師としてお伝えした事>

東日本大震災の直後から PMI 日本支部では「震災復興支援プログラム」を立ち上げて、いくつかのプロジェクトを直接支援してきました。

ソーシャル活動を通して、分かったことは、まず「行動を開始する初期の段階では必ずしもゴールが明確に決まっていない」という難しさです。次に、一般的にソーシャル活動では、多様なステークホルダーが関わっており、ある目的に向かってそれぞれは熱い思いを持って取り組もうとしています。目指すところのゴールイメージが各人さまさまなことが多いことなどです。

詳細をきっちりと決めて、できるだけ変更をせずに粛々と作業を進めていくのが、これまでのプロジェクトマネジメント標準（PMBOK）の基本的なアプローチでした。企業内のプロジェクトであれば、トップダウンで方向性を決めることができるでしょう。

ソーシャル活動の場合は、いろいろなステークホルダーの意思を尊重して、実際の現場

に入って問題の本質を捉え、試行錯誤をしながら大方の合意を作り上げていくことになり
ます。

「そのようなソーシャルな試行錯誤に対して、マネジメントとして、どんな貢献ができる
のか？」 ソーシャルPM研究会の仲間が、毎月、悶々と議論してきたテーマです。そ
の中から、これまでの研究会としての活動を通して、マネジメントとして関与し疑問に応
えていく必要性として6つの喫緊のテーマを以下の通り整理しました。

- 1) ソーシャル・デザイン思考
- 2) ソーシャル・ステークホルダーマネジメント
- 3) ソーシャル・ベネフィットマネジメント
- 4) ソーシャル・ポートフォリオマネジメント
- 5) ソーシャル・アジャイルマネジメント
- 6) ソーシャル・ビジネスモデルデザイン

2015年12月から、本格的に、ソーシャルPM実践ワークショップを運用開始する
こととしました。その狙いは、以下の目的を達成するため、継続的にソーシャル活動を志
す人材に実践面を重視した研修コースの提供、および学びの場を提供することを提案する
ことです。

- 1) 新たに、本研究会に参加する人たちが、現場の社会課題解決の活動に参加する際
に、必要となるマネジメント知識・実践スキルを事前に提供する
- 2) PM実践ワークショップを通して、多くの人が集まり、「より実践的&不可欠なマ
ネジメント手法・フレームワークとは何か？」について議論する場を提供する

私たちが提供する活動も、「参加したい」「やってみたい」と思っただけのような、
共感を呼ぶ行為であることにこだわっています。共感を呼ぶために必要なものが楽しさで
あり、それらは人が持つ「創造性」が生み、人が持つ「創造性」に訴えるものに違いない
と思うからです。

今後も、言葉の定義にあまりとらわれることなく、ソーシャル課題の解決に向けて活動
しているさまざまな人に実践的な枠組み（フレームワーク）、方法論とPMツールをコンテ
ンツとして提供していきたいと思います。

<振り返りと今後に向けて>

受講者からの、極めて素朴な質問に対して、具体的な実践事例を提示できなかったこと
が悔やまれます。まず、今後進める実践ワークショップと、それを通したさまざまな適用
と振り返りを通して、使えるフレームワークを目指して行きたいと思います。

今回の第3回 IT×災害会議は、全体的に、ITの専門家が多かった印象があります。
今後提供するさまざまなコンテンツは、ITの分野ばかりでなく以下のステークホルダー

にとっても有益であると考えます。

<コンテンツを提供したいステークホルダー>

- ・民間非営利組織（NPOなど）のプロジェクトの企画責任者・担当者
- ・企業の社会的責任（CSR）の活動や通常業務の中でソーシャルセクターに携わる

方々

PMI 日本支部の法人スポンサー会合、その他の活動を利用して情報を発信していく必要性を認識しました。

C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

ソーシャルPM研究会が連携している団体からのプロマネ募集です。

C1 日本財団「WORK FOR 東北」（復興庁協働事業） プロマネ募集

◆お勧めの案件

[岩手県岩泉町] 地域づくりコーディネーター【統括マネジャー】

震災により被害を受けた地区のコミュニティ構築、農産物の販路拡大、商店街や岩泉まるとして、宣伝事業の実施などを行う地域づくりコーディネーターの統括マネジャーとして、スタッフ間の情報共有、県内外の企業等と町内資源のマッチングを担当いただきます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/94>

[宮城県石巻市] 市内の加工業者の販路開拓（石巻市6次産業化・地産地消推進センター）

震災により販路を失った石巻市内の水産加工業者の新規販路開拓や商品開発、輸出支援を担っていただける方を募集します。

これまで培ったマーケティングやバイヤー経験を活かし、新しい地域産業の形成に関われるやりがいのある仕事です。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/66>

[宮城県気仙沼市] 気仙沼「海の市」誘客への企画・推進ディレクション

震災前は年間100万人が利用していた海鮮市場「海の市」（2014年7月再開）に震災前の賑わいを取り戻すため、継続的な集客イベントの企画立案、「海の市」のブランディング、新商品の開発・販路開拓等のマーケティングを担当いただきます。

ビジネスで積み上げたスキルで地域活性化に関われるチャンスです。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/90>

[福島県浪江町] 浪江町教育委員会 建築技術職員 (学校等改修)

浪江町では、2017年4月の全町帰還に向け、小中学校及びこども園、社会教育施設等の改修を進め、子育て世代が安心して帰還できる準備を進めています。膨大な工事が必要にも関わらず、教育委員会に専門知識を持つ人材がいないため、設計・事業推進・施設整備計画のプランニングのできる建築士を募集しています。

建築・土木の技術は被災地では非常にニーズが高いものとなっており、まちの再生の推進役となって活躍することができます。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/148>

その他、全体の募集案件は以下よりご覧いただけます。

◆ 「WORK FOR 東北」事業について

<http://www.work-for-tohoku.org/>

「WORK FOR 東北」では、東日本大震災で被災した自治体などの人材ニーズと、復興の現場で働きたいという個人、企業の方をお繋ぎするサポートを実施しております。復興に携わる業務にご関心のある方、ぜひ一度ご検討頂ければ幸いです。

お問合せ・お申し込みは以下まで

日本財団「WORK FOR 東北」事務局

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F

TEL : 03-6229-5229 (9:00~18:00/土日祝除く)

E-Mail : jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp

C2 「サービスグラント」東京ホームタウンプロジェクト:活動紹介

NPO 法人サービスグラントです。『ビジネススキルや専門知識を活かしたボランティア活動』である“プロボノ”のコーディネートを通して、NPOの支援を行っています。

現在サービスグラントでは、「いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる」をスローガンに、地域住民やボランティアによる、住まいや身の回りの生活支援・福祉サービス、人と人とのつながりや、見守り・支え合いなどのネットワークづくりを維持・発展・強化するさまざまなプログラムを推進するプロジェクト『東京ホームタウンプロジェクト』

を展開中です。

先日は 1 日で都内の社会福祉に関わる団体・企業の課題を解決するワークショップイベント“プロボノ 1DAY チャレンジ”を開催。PMI ソーシャル研究会に所属されている方にもメンバーとしてご参加いただきました。

今後も活動の様子は Facebook ページにて随時お知らせしていきますので、是非ご覧くださいませ。

【東京ホームタウンプロジェクト：Facebook ページ】

www.facebook.com/tokyohometown

■ サービスグラントにご参加いただくには、まずはスキル登録を！

ご参加への第一歩として、皆さまのビジネススキルや専門知識について『スキル登録』をお願いしています。ご参加までの流れ、並びにスキル登録フォームは以下ページよりご確認ください。

<http://www.servicegrant.or.jp/skill/flow.php>

【お問い合わせ先】

NPO 法人サービスグラント（担当：岩淵）

03-6419-4021

info@servicegrant.or.jp

=====

編集後記

今月の中心テーマは「ITx 災害」会議です。

立川で開催ということで地の利が悪く集客も 60 名くらいの見込みだったところに倍近い申し込みがあった。当日参加者も多かった。何がこれだけ人を引き付けているのか。当研究会メンバーが参加して感じたところがそれを物語っています。

ITx 災害会議の全体を通じて言えることですが、社会課題の解決という目的の前では、参加者全員が無条件に協力的な態度になるのだということを身を持って感じることができました。（大沼）

スタッフ各自のモチベーションの高さ、責任感の強さ、会議を成功させようという熱意がコラボレーションされ、120 名近い参加者を集め、参加者、スタッフにとっても満足度が

高く、スローガン通り、「つながり×ひろげる」会議を実現できたと思います。(石塚)

正にこれがソーシャル活動の真髄。
今後進める実践ワークショップと、それを通したさまざまな適用と振返りを通して、使えるフレームワークを目指して行きたいと思います。(中谷)

いよいよ12月5日から始まる「ソーシャルPM実践ワークショップ」を実りあるものにしていきたいと思います。

このニューズレターは社会課題解決の志を同じくするプロジェクト・マネジャーのコミュニティ醸成のために関係団体のイベントや人材募集の情報連携をいたします。
毎月15日の発行を目標にしますので、掲載希望のニュースをお寄せください。

発行者： PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

責任者： 研究会代表 高橋 正憲

=====